

No.13

東京文化資源会議

「ティーチャ」

T-Cha

東京文化資源会議
Tokyo Cultural Heritage Alliance

ニューズレター

Shomyo Urai



Shunya Yoshimi



@ Ueno
Night Park

上野と寛永寺の歴史
夜の公園から
文化を創造する

「上野
ナイトパーク
構想」

江戸から明治の大転換
寛永寺の歴史から
上野公園の歴史を紐解く

博物館や美術館など、様々な文化施設が集結する上野恩賜公園。週末は多くの家族連れなどで賑わう、憩いの場として知られています。

その歴史を紐解くと、江戸時代の徳川政府によって建てられた寛永寺の広大な寺域でした。東叡山寛永寺の名が示すとおり、寛永寺を設立した天台宗・天海僧正は、京都御所の比叡山延暦寺になぞらえ、江戸を宗教的に守護する鬼門の位置に寛永寺を建て、以後、徳川將軍家の祈禱寺と菩提寺として繁栄してきました。

「上野はまさに徳川の聖地でした。だからこそ、明治政府は西洋に追いつけ追い越せのスローガンを実現する場所として上野を選んだ」と話すのは東叡山輪王寺門跡・寛永寺住職の浦井正明さん。明治政府は徳川家と縁のあった寺域を次々と没収し、明治6年の公園設置令によって多く

NEXT PAGE

の寺域が西洋式公園へと姿を変え
ました。寛永寺の寺域は現在の
上野公園となり、そして明治
10年には上野公園で第一回
内国勸業博覧会が開催され
るなど、政府主導による近代
化の象徴の場となったのです。

「寺域を公園にしたことは大
きな意味があります。一つが人々
から徳川の記憶を消すこと。二つ
目は物理的に大規模な土地を没
収できる場所であったこと。三つ
目は上野公園で博覧会を開催す
ること、明治政府としての近代
化の宣伝をアピールすることと
ともに、それ以前の時代を否
定することでした」と吉見幹事
長は指摘します。

公園化によって寛永寺の境内
にあった建物を撤去するよう政
府は命じます。当時、上野東照
宮所属だった五重塔は、政府の
神仏分離令によって寛永寺の所
属となりました。改修や補修を
行い今なお残る五重塔は、現
在は重要文化財に指定されてい
ますが、東照宮と五重塔の間
には動物園の柵が設置され、「本
来あるべき空間と精神性の一体
感」は損なわれたままになって
います。「(吉見)のです。

今でも、年に一度は寛永寺の
住職らが五重塔へお経を読み
足を運んでいるものの、そのつ
ながりは決して強いとはいえ
ません。神仏分離令は、様々な
精神文化の行為



野の山と繁華街である
る広小路の間における人の往
来はあまり多いとは言えませ
ん。昼間は各文化施設が様々
な催しを開催



しては閉館後や日の入り後の公園は
閑散としています。昼間の上野
の山と、夜中心の広小路の繁
華街の人たちは客層も人の交
流も完全に分断されているの
です。

「本来は、夜でも不忍池や公
園を楽しんだりしながら、昼
も夜も人々が集い交流する場
所であるべき」と吉見幹事長
は話します。

都市計画家が構想した、上野
台地の地形を活かしたグランド
デザインを今こそ編み直すこと
によって、歴史的・精神的・文
化的な一体性を持つ上野の風
景をつくり出すことができる」
(吉見)

**公園全体の一体性を
目指して
上野ナイトパーク構想と
コンソーシアムの設立へ**

今や博物館や美術館などの多
様な文化施設が集結した憩いの
場である上野公園ですが、公園
や地域との一体性の観点から
みると、芸術文化が点在する上
野の山と繁華街である

構想をこれまで練っていました。
その中から、寛永寺を含めた各
施設とともに上野公園全体の
一体性やつながりを再興し、こ
れからの生活様式にあった新
たな公園の活用方法の提案を
見据え、2018年に開始した
上野ナイトパーク構想会議お
よびその後の上野ナイトパーク
構想の提案を経て、2020年
7月には上野ナ

イトパークコンソーシアムを設
立しました。夜を主体に、昼
夜の一体性と上野周辺地域と
も連携しながら、街と文化施
設が密接に連携したエリアへ
と変えていく活動をスタート
させました。

**地域全体をミュー
ジウムに
街と文化施設のさらなる
連携で
文化価値の新たな創出へ**

2020年は、新型コロナウイルス
の流行によって、社会のあり
方そのものにも大きな影響を
及ぼしました。世界中で、飲
食店の外に机や椅子を設置し
、街中から自動車をできるだけ
排除し、歩行者天国とする
など、道路が広場となり、コ
ミュニケーションの空間とな
りつつあります。施設におけ
る催しも、屋内への集客だけ
でなく、屋外も活用した動き
などにより公共空間を活用し
た都市の姿が求められています。



の文化価値を創造する場とし
て世界に発信できる地域にな
っていく(吉見) 施設同士の
連携の一例として、東博が毎
年開催しているお正月の和太
鼓や獅子舞などの日本伝統が
披露される催し「博物館に初
もうで」と連携し、寛永寺の
根本中堂への参拝や徳川歴
代将軍の肖像画などを拝観
できる連携企画が毎年継続
して実施されています。

「これだけ文化施設が集中
しているエリアは上野の他に
日本中探してもありません。そ
れをどう活かすか。施設単
独ではなくさらなる横連携
を深めつつ、江戸から続く
歴史と文化の場所としての
あり方を今後提案していき
たい」(浦井)

「屋内で完結せずに、屋外
も活用して新たな人の交流
をつくり出すこと。貴重な文
化資源を屋内にとどめるの
ではなく、デジタル技術など
を活用しより外に出していく
こと。施設同士が有機的につ
ながり、単館ではなく上野地
域全体がある種の「ミュージ
ウム」となって文化体験を提
供する都市空間となること
で、日本独自の

生み出すための仕組みを継
続的にくり出すための活動
を、上野ナイトパークコン
ソーシアムとしても計画して
います。その先には、上野
や周辺地域と密接に連携し
ながら、文化資源区全体の
都市のあり方そのものを見
つめ直し、東京ならではの
日本独自の文化を発信する
地域として、新たな都市像
を描くための活動を上野を
中心に推進してまいります。

(記事構成) 江口晋太郎 撮影 鈴木沙

T-Cha NOW TOKYO PROJECT

東京文化資源会議では、民産官学の様々な分野の専門家や実践者が集い、東京の各地域で育まれている様々な文化資源をハード面・ソフト面から活用するプロジェクトを推進しています。ここでは、東京文化資源会議全体の動向や各プロジェクトの近況をお知らせします。

崖東夜話が開催 六つの施設連携 精神文化を語る

湯島神田上野社寺会堂研究会は、異なる文化・宗教施設が共存し発展してきた地域の歴史的特性に注目し、諸施設が果たしてきた精神的な役割を再確認するとともに、今日求められる新たな倫理の形成に果たしうる役割について考えてきました。10月27日、これまでの活動を踏まえ、六つの文化・宗教施設による初の共同イベント「崖東夜話」を開催しました。

新型コロナウイルスが流行するなか、意図をできる限り変えないまま安全な開催を図れるよう準備を進めましたが、秋の夜宴のような寛いだ雰囲気や各施設の根拠をなす思想文化を語り合う本来の目指した会の姿は、残念ながら満足いくかたちで実現することはできませんでした。一方、未曾有の状況下にもかかわらず、企業や研究者の方々



から積極的な参画をいただき「文化資源プロジェクト」の開催、インタビューマップの紹介「崖東語感」の設置などオンラインを活用した創意あふれる試みとともに、プロジェクトの提供など、当初の想定を上回る豊かな企画を実現することができました。

本企画の関連書籍である『社寺会堂から探る 江戸東京の精神文化』（勤草書房）は、「崖東夜話」の源泉である文化・宗教施設関係者へのインタビュー、哲学思想史の研究者による論考と座談会を収録しています。是非手にとって、一読ください。コロナ禍の収束が見通せないなか、異なる思想背景や専門性をもつ宗教実践者や研究者、参加者が時間的・空間的に一つのイベントに集い、意識を共有する機会を設けることができたことは、多様な文化・宗教施設の交流と活性化を目指す「崖東夜話」の始まりとして大きな一歩となりました。

密を避ける試み 新たな交流空間へ

上野スクエア構想を起点とした、地元の方々と一体になった飲食街まちづくり「アーツ&スナック運動」が不忍池のほとり・仲通り界隈で継続中です。ビルオーナーの方々との勉強会や、空きスナックを活用する取り組み、夜の街のこれからを考えるラウンドテーブルなど、多様な企画を実践しています。

この秋の目玉は、商店街の街路灯を立ち飲みテーブルに変えてしまう「ガイトウスタンド」です。着脱式のテーブルをデザインし、約300mの仲通りラウンジの立ち飲み席を設置しています。



思いに街角の風景とテイクアウト商品を楽しむというニューノーマル時代の飲食スタイルの提案です。

10月14日を皮切りに毎週金・土曜日、11月28日まで毎週設置を続け、客引きばかりだった夜の仲通り通りに新しい滞留風景が生まれました。実に沿道22もの飲食店が特別テイクアウトメニューにご協力下さいました。

結果は大好評で、様々なメディアにも取り上げられたガイトウスタンド。冬季も不定期で設置しながら、バージョンアップや水平展開を模索していく予定です。

崖東夜話と連携 異なる時代の地図 地域の歴史に触れる

地図ファブプロジェクトは、地図アプリ「Strom」を活用した「UPTOKYO BURARI」の新しいコンテンツを公開しました。

社寺会堂プロジェクトによる「崖東夜話」とコラボレーションし、アッサラームファンデーション・寛永寺・神田明神・ニコライ堂・湯島聖堂・湯島天満宮および周辺エリアに関する「崖東夜話」に関する「精神文化」の「社寺会堂」に関するコンテンツを公開しています。江戸時代から昭和までの各時代の地図、「崖の東」という地形がわかる標高地図、「崖東夜話」のイベント地図の上に、様々な情報を掲載したデジタル

地図となりました。「崖東夜話」では、宗教施設及びエリアに関する一般的な情報を得ることができます。さらに踏み込んだ情報を盛り込んだのが「社寺会堂」です。「精神文化」では「崖東夜話」に合わせて出版された『社寺会堂から探る 江戸東京の精神文化』で語られている学術的考察に触れることができます。詳細は崖東夜話のウェブサイトをご覧いただき、実際に地図を動かしてみてください。



音声で情報発信も 活動の幅を広げる 広域秋葉原PJ

広域秋葉原作戦会議プロジェクトでは、8月から月に2回程度YouTube上に動画をアップ

ロードする「広域秋葉原放送局（ABS）」の取り組みを行っています。

第2回までは生放送でしたが、第3回からは音声のみの「聴く動画」のアップロードに形態を変え、広域秋葉原エリアの様々なテーマを取り上げてきました。ABSでは、上野湯島で実施されていたガイトウスタンドでの屋外収録も実施するなど、他のプロジェクトと連携したコンテンツが生まれました。この取り組みは12月4日の第9回でいったん終了しましたが、現在もYouTubeを通じて視聴することができます。

11月には、プロジェクトチームメンバーの有志が集まり、新型コロナウイルス対策を行いながらノーガテル秋葉原にて合宿を実施し、プロジェクトチームの今後の活動方針の確認や、秋葉原の街がナイトタイムにどのようなになっているのかの調査を行いました。



「あそび」の原点
道路空間の活用で
新たな提案を

スポーツ文化資源プロジェクトチームは、2021年1月下旬から2月中旬にかけて上野仲通りと不忍池池畔を活用して開催されるGOTO商店街事業「しのばず遊ぼう！池と町(仮)」に参画します。

新型コロナウィルスは、歓楽街としての仲町通りに大きな打撃を与えましたが、江戸から続く「遊歩道」としての機能を見つめ直す契機となりました。スポーツ文化資源プロジェクトチームでは、本事業にあわせて身体と空間を使った「あそび」という原点を空間に沿って探す試みを実施します。

不忍池畔や仲町通りの空間特性を活用した、この場所だからこそできるあそびを通じて、はからずも新型コロナウィルスに

よってもたらされた。開放感をいかした遊び、そして飲食店やガイトウスタンドからそれを観る楽しさなどの体験を提供しながら、道路空間の活用のきっかけづくりとなるような、新しい歓楽と遊戯のあり方を上野から発信したいと考えています。

上野の夜を楽しむ
ナイトパーク企画
開催準備中

東京文化資源会議と上野ナイトパークコンソーシアムは、文化庁の令和2年度博物館・文化財等におけるナイトタイム充実支援事業を採択したことを受けて、2021年1月から2月末にかけて、上野公園を中心とした各文化施設と連携しながら、新たな上野公園の楽しみ方を提案する「上野ナイトパーク2021 winter」を開催いたします。

本企画は、2020年3月に開催予定だった企画を軸に、一つには2月5日に上野公園の噴水前広場を活用したアートインスタレーションや音楽ライブなどを開催し、昼間だけでなく夕方から夜にかけて様々な催しを開催いたします。

また、各文化施設との連携として、展示内容と連動した少人数によるツアーを開催します。ツアーでは、専門家や学術関係者らとともに、専門的な解説も交えた鑑賞、ツアー後によるレクチャーなども盛り込んだ充実した内容を予定しています。他にも、オンラインによるコンテンツやウェブサイトの開設など、上野公園や上野周辺の文化を楽しむための様々な情報発信を今後も行っていく予定です。新型コロナウィルスの感染防止対策を行いながら、充実した企画内容にしていきたいと考えています。詳細などは特設サイトを開設いたしますので、内容が確定したら東京文化資源会議のウェブサイトを定期的に掲載を予定しています。

編集後記

先日、文化資源とまちづくりについて話をする機会がありました。半分は伝統的建造物群保存地区などの話を、半分は東京文化資源会議が対象とする文化資源の話をしました。神保町の古書店も、本郷の旅館・銭湯も、秋葉原のサブカルチャーやe-Spaceも、掛け替えのない文化資源であると改めて思いました。それらは油断していると失われてしまう危険性があり、では私たちは何を大切にすべきかと問わねばならないでしょう。(陸)

街の商店や老舗の店舗など、地域の歴史や文化を担ってきた場所の多くが、2020年の新型コロナの影響により経営難に直面しています。この問題はまだまだ長期化してくることを考えた時、私たち、そして社会として何ができるのか、もっと考えていかなければいけません。同時に、時代の変化は新たな取り組みや根本的なシフトをする機会でもあります。若い世代への継承や新たな発想に取り組みすることで生み出されるものもあるはずです。(江)

[ティーチャ]東京文化資源会議ニューズレター No.13

読み、旨み、味わいのある東京の文化資源的エキスを3ヶ月に一度、お届けします。

編集：東京文化資源会議広報委員会 デザイン：波井史生(PANKEY inc.) 執筆：江口晋太郎(TOKYObeta Ltd.)

写真：鈴木渉 印刷・製本：スターツ出版株式会社 発行人：東京文化資源会議 発行日：2020年12月31日

〒110-0005 東京都台東区上野2-11-1藤井ビル3階 TEL：03-5244-5450 MAIL：info@tcha.jp URL：http://tcha.jp/

